

Title	『人類の現実と理想』に現はれたるワイトリングのユウトピヤ：『ワイトリング研究』の一節
Sub Title	
Author	平井, 新
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1928
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.22, No.7 (1928. 7) ,p.895(21)- 938(64)
JaLC DOI	10.14991/001.19280701-0021
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19280701-0021">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19280701-0021</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

に新鑄貨の誘入せらるゝことを拒めり。紀元前第四世紀の末葉に至るまで此の國唯一の通貨は約一封度四分の三の重量を有する鐵棒より成り、極めて少額の支拂を行ふが爲めに此の通貨を運搬するにも、二足の牛と一輛の車を要したりと傳へらる。(Plutarch, Lycourgos, 9; Burns, op. cit., pp. 350-352.)。プラトーンの著書中に混じて吾人に傳れる對話篇「エリクシアス」の著者が、ラゲデエモンに於いては一定量の鐵が法貨として使用せられ、斯くの如き鐵の重荷を有する者が富裕と看做さるゝも、他の地方に於いては這般の所有物は何等の價值をも有することなかる可しと云へるは常さに之れに當る。(Eryxias, 17.)。大哲プラトーンの腦裡に宿りたる新貨幣制度は實に保守的貴族的なるスパルタの其れに過ぎざりしなり。而してスパルタ其の者の衰頹と崩潰とは又た其の光榮ある戰勝と共に輸致せられたる金銀と之れに對する其の人民の渴想とに其の端を發するものなりしなり。

(一九二八年六月二十日夜)

## 『人類の現實と理想』に現はれたるワイトリングのユウトピヤ

——『ワイトリング研究』の一節——

平井新

(一)

近世獨逸社會運動の歴史は、動もすればマルクス、ラッサルの名に依て獨占せられ勝ちである。固より彼等の名が其遺業と共に歴史の高所に特筆せらるゝに就ては毫末の異議を挿む余地は無いであらう。併し乍ら歴史は唯々虚空の一躍に依て成就せらるゝものでは無い。獨逸社會運動が「共産黨宣言」に依て代表せられ、「労働者綱領」に依て記憶せらるゝに到る迄には一聯の波瀾に富む自己成立前史を有する。マルクス、ラッサルをして、其のよく中興の名をなさしめた其背後には前人の開發的努力が埋れてゐる。而らば彼等の刈入れた社會運動の種子は果して何人が播いたものであらうか。忘れられた先驅者ギルヘルム・ワイトリング Wilhelm Weitling の名を彼の業績を傳へんとする筆者の目的は爰に在る。

固よりワイトリングの名はマルクス、ラッサルの盛名には到底較ぶべくも無いが、其れは前者の遺

業が少なるに依るのでは無く、後者のそれが、より大なるためである。成程、ワイトリングの思想はプロレタリア的階級闘争に對して正常の道を指示する事が出来なかつたであらう。併し乍ら、近世獨逸社會主義運動の口火を切つたのは實に彼では無かつたか。共產主義的傾向を有する個々の散逸せる思想は固より彼以前にも既に獨逸に存在した。併し乍ら何れもプロレタリアの心底を捉へたものは無かつた。口頭に依る宣傳、プロレタリアの組織に依て人類社會の上に共產主義を實現せんとした最初の系統的運動は實にワイトリングを以て嚆矢とするものである。彼のユウトピヤ的思想は今日殆んど實行に堪えざる幾多の荒唐陳腐の要素を包含して居るが、サン・シモン、フウリエエ、オエンの空想主義が尙ほ依然後人の思索を刺戟する或者を有すると均しく、彼の系統も亦總てがこのために葬り去らる可きものでは無い。マルクス、ラッサルを社會運動の完成者と看れば、彼の努力に依て代表せらるゝ時代は其搖藍時代若くは準備時代と言ふべきであらう。此搖藍時代若くは準備時代無くして如何にして完成時代があり得やうぞ。歴史が不斷の因果的繼起であるとすれば、完成時代のよき理解は先づ其搖藍時代若くは準備時代に溯る事を要求し無いであらうか。ワイトリングが社會思想史上に占むる地位のマルクス、ラッサルと等しく重要なる所以は爰に存する。

(1) Eduard Fuchs, Weiting. (Der sozialistische Akademiker 2. Jahrg. 1896. S. 610. 613.)

Emil Kaler, — Wilhelm Weiting. Seine Agitation und Lehre. 1887. S. 1.

Franz Mehring, Einleitung zu "Garantien der Harmonie und Freiheit von Wilhelm Weiting" 1908.

## (11)

『人類の現實と理想』 Die Menschheit, wie sie ist und wie sie sein sollte<sup>①</sup>はワイトリングが一八三八年巴里正義者同盟の依囑に依り、該同盟の信條として起草した匿名の小冊子で又實に彼の處女作である。今少しく本書成立の経緯を述べやう。

Wilhelm Weiting は一八〇八年の當時獨逸に於ける商業上、宗教上、政治上の自由主義の温床たりしマグデブルグに一私生兒として呱呱の聲を擧げた。彼の父は Terjon と稱する一佛蘭西將校で一八一二年ナポレオンの軍隊と共に露西亞遠征に従ひ、其地に客死した。ワイトリングは亡父を追憶するの餘り、後年一子に亡父の名 Terjon を與へたとさへ言はれてゐる。

幼にして父を失ひし彼の幼年時代は極度の貧困と窮乏に苦しんだ。土地の小學校を卒へると婦人服裁縫を見習ひ一八三〇年春より三二年秋までフイブチッピの婦人服裁縫人 Höpfer & Walach の下で働き、此地で、サクソニヤの自由主義運動に加はり、初めて政治生活に觸れた。又二三のライプチッピ新聞に諷刺的小詩を發表した。一八三二年の末頃ドレスデンで働き、一八三四年維納に來た。此地では婦人裝身具用小間物類の製作に従事した。彼は此仕事に非常に熟達したといはれてゐる。何となれば彼は毎週六拾乃至七拾グウルデンと言ふ當時としては破格の賃銀を受けてゐたからである。此地は又彼がハプスブルグ家の一公儲の愛妾たりし一女性と戀愛生活をした思ひ出の地であつた。彼は復讐心に燃ゆる戀敵の犠牲となるのを畏れて、早速此地を去らねばならなかつた。斯様な逸話を外にしては、後年彼が實際運動家となり、共產主義者として立つに到る迄の生活に關して、殊更取り立てて述べべきものはない。<sup>②</sup>

一八三五年十月巴里に行き獨逸労働者の秘密結社『亡命者同盟』の會員となつた。爰に後年社會運動家としての生涯の第一歩を印した。一八三六年四月迄此地に滞在し次いで獨逸を経て維納に還り、一八三七年九月再び巴里に戻つた。此巴里不在の間に彼の屬した亡命者同盟は、解體して正義者同盟となつた。此變化を知るには亡命者同盟と密接な關係があり、其母體たるの觀ありし佛蘭西秘密結社「人權俱樂部」*Société des droits de l'homme* 以來、秘密結社運動の變化を一瞥しなければならぬ。

人權俱樂部は當時に於ける最も著名な共和主義的—民主的目的を有する上下の嚴格なる階級組織の陰謀的秘密結社で、其理論は大體、佛蘭西大革命に於けるロベスピエールの起草せる人權宣言の思想である。此人權俱樂部は一八三四年の里昂—巴里暴動の失敗後解體し翌三五年九月法に依て共和主義運動は殆んど屏息してしまつた。

此人權俱樂部解體の後を承けて、續いて家族俱樂部 *Société des Familles*、次いで季節俱樂部 *Société des saisons* が建設せられる事となつた。其指導者は *Blanqui, Barbès* 等であつた。此結社に於いてプロレタリアの要素が既に小ブルジョアの傾向を壓倒してゐた。季節俱樂部は理論上にも實行上に於いてもバブウヰズムを奉じた。即ち未だ幼稚な共產主義的思想と、自覺せる少數者の革命に依て一舉新社會を實現せんとする戦術とを守つてゐた。バルベ、ブランキイは所謂實行家に屬する純粹の革命家ではあつたが、根本に於いては唯々労働者階級の苦惱に同情を有しても未だ何等の社會主義學說を持たず又社會變革の明瞭な實際的手段をも知らなかつた一個の政治的革命家に過ぎなかつた。

略々同様な變化は又、亡命者同盟にも現はれた。固より亡命者同盟は當初より其思想上にも感情上にも人權俱樂部に比して社會的色調が濃厚であつた。同盟は主として手工業青年から成り、彼等は何れも『信者の言葉』*Les paroles d'un croyant* 1833. の著を以て夙に令名ある *Felicité de Lamennais* に心酔してゐた。本書は一八三四年 *Ludwig Börne* に依て獨譯せられ、本同盟の指導原理となつてゐた。

勿論、ラムネエは革命家でも無く社會主義者でも無かつた。彼は總ゆる社會主義的組織を難じて其れは人類を黒人、然り動物の下に屈從せしむるものであるとさへ言明してゐる。從來宗教の社會主義的假裝に傾倒した獨逸手工業青年は今や、現實との矛盾を感知するに到つた。亡命者同盟の機關紙「亡命者」にはプロレタリアの階級意識が濃厚となり、宣傳は陰謀よりも有力なる武器である事が明白となつた。斯る意見を主として懷抱したのはギョツチンゲンの私講師 *Theodor Schuster* であつた。一方ハイデルベルヒの私講師 *Jakob Venedy* は保守的態度を固執した。爰に分裂の種は播かれた。一八三六年、同盟の進歩的分子はシュスタアに率ひられて脱退し正義者同盟を組織した。同盟の組織は民主的となり、共產主義を奉じたがそれは勿論バホエフ主義の單なる模倣ではなかつた。ワイトリングが一八三七年九月再び巴里に來た時、事情は斯様に迄發展してゐた。分裂後指導原理を缺いてゐた同盟はワイトリングに同盟信條の起草を依頼した。『人類の現實と理想』はかくして彼の筆に成り、一八三八年の末頃匿名を以て巴里に公刊せられた。一八五三年ワイトリング此當時を述懐して謂ふ、

『一八三八年巴里で、自分は、自分が少し前加入した吾々結社の本部から、同盟員の懇望により、財貨共有社會の可能性を書物に依て解説して貰ひ度いとの依頼を受けた。一人の競争者はあつたが本部は自分の著作『人類の現實と理想』を満場一致を以て採用して呉れた。二千部を印刷した。勿論稿料は一文も受けなかつた。本書を書いた頃の自分は毎夕十時、十一時、日曜日は午後十二時迄裁縫人として勞働しなければならなかつた』との

本書の思想的源泉を確定する事は困難であるが、ラムネエ、フウリエエの影響の特に著しい事は争はれない。博愛の觀念を初めとして、總ての基督教的傾向は殆んどラムネエの感化に歸すべきであらうし、勞働と享樂の調和、財貨共有社會の構成等の思想はフウリエエの直接影響と見るべきであらう。<sup>(5)</sup>

又カベエの影響が屢々力説せられてゐる。Kaler, Fuchs 等は何れも此見解である。<sup>(6)</sup>併し乍らカベエの Voyage en Icarie のは出版は一八四〇年であり、ワイトリングの本書は一八三八年の刊行であるを見れば影響有無の問題は自ら解決するであらう。

本書の出版に關しては記憶すべき佳話がある。本書は巴里で秘密裡に出版せられたのであるが是がために彼の同志は少からざる精神的物質的犠牲を拂つた。即ち同志の或者は自ら植字し、印刷し製本し、室を貸與し、又或者は、寄金したり、資金調達のために時計を入質した者さへもあつた。<sup>(7)</sup>本書は又獨逸本國にも播布せられた。例へば同盟會員にしてフライブルヒの靴工 Heinrich Jakob は一八三九年巴里の聖靈降臨祭の當日多數を携へてフランクフルト・アム・マインに行つたと言はれてゐる。<sup>(8)</sup>

正義者同盟は、ワイトリング共産主義の浸潤と共に既に單なる陰謀主義の非なるを悟つてゐたが實際上には七月王政に依る出版及結社の自由禁壓のために、尙ほ依然として陰謀團體として止り季節俱樂部の援助を仰いでゐた。一八三九年五月十二日ブランキイ、バルベの季節俱樂部が巴里に革命の陰謀を企てるや、正義者同盟も之に參加した。併し乍ら此陰謀が大事に到らずして彈壓せられ、ブランキイ、バルベが投獄せらるゝや同盟も亦其飛沫をうけて直ちに解散を命せられシャッパア、パウエル、モオル等の有力分子は前後して英國に逃れて此地に同盟を造つた。一八四〇年以來同盟の中心は英國倫敦に移つた。四六年頃まで中心思想は依然としてワイトリングの共産主義であつた。<sup>(9)</sup> 巴里同盟分散後、ワイトリングは四散せる同志を糾合して再興を計つたが、四〇年夏彼が同盟より瑞西宣傳の使命を帯びて巴里を去るや、Everbeck 之に代て巴里正義者同盟の指導に當つた。Everbeck はカベエ主義を鼓吹したが、ワイトリングの勢力は依然牢固たるものであつた。

ワイトリングは瑞西に移て以來、ジュネエツに正義者同盟を造り一八四二年十二月彼の主著調和と自由の保證『Garantien der Harmonie und Freiheit』を公にした。<sup>(10)</sup>併し乍ら本書の根本思想は人類の現實と理想』のそれと同一であつて、唯だ後者の敷衍補綴に外ならぬ。

是等の事實に徴すれば、ワイトリングの『人類の現實と理想』は初期獨逸社會運動の思想水準を示すものであり同じく社會運動史上の思想的里標たるものである。共産黨宣言、勞働者綱領と共に、初期社會運動の理解の重要なる典據であらう。

ワイトリングの名は從來、主として『調和と自由の保證』に依て知られてゐるし又彼を論ずる者は本書に言及するのみにて『人類の現實と理想』を顧みない。カアレルの如きワイトリング研究の第一人者も亦斯書に就て論及するや極めて冷淡である。其他おやである。『人類の現實と理想』は『調和と自由の保證』の最初の草稿とも言ふべきもので、其中には後者の中で詳述せられた思想が既に存するのみならず、將來社會の思想も簡單乍ら其輪廓を窺ふ事が出来る。ワイトリング自ら後年此事を言明してゐる曰く『此書は能力選擇及び一種の交易制度たる取引時間の制度を含んでゐるが此制度は今日も尚、予の總ての著書を通じて、予の提議する改革の基礎をなすものである』之に依て觀れば『人類の現實と理想』は『調和と自由の保證』と同様の社會思想史的意義を有するのみならず、又より大なる社會運動史的意義を有する。ワイトリングの名は動もすれば忘れられ勝ちであるが、併し本書の存在と意義とは更に埋没せられてゐる。

筆者の目的は埋れたる本書の思想系統を唯々可及的忠實に辿らんとするに過ぎない。固より本書と『調和と自由との保證』及び『憐れなる罪人の福音』Das Evangelium eines armen Sündersとの思想的關係に論及する事は興味ある、而も重要な研究たるを失はないが、筆者は是を姑く後日に割愛して單獨に、本書の内容を解明するに止まつた。寡聞なる筆者は又本書に關する研究のあるのを知らぬ。拙稿が多少なりとも其缺を補ふ一助とならば幸甚の至りである。

因に本書の初版は一八三八年巴里に出版せられ、第二版は一八四五年 Bern の Jenni Sohn に依て出版せられた。最新版は一八九五年 Eduard Fuchs が前掲第二版を臺本として、其編輯する社會

科學論說集 Sammlung gesellschaftswissenschaftliches Aufsätze の第九集としてミッテンに出版したる複製書である。尚ほ同版には『隣れる罪人の福音』の補遺が附録として附せられてゐる。以下筆者の使用する版本は即ち之である。

- (1) Georg Adler 著 Die Geschichte der ersten sozialpolitischen Arbeiterbewegung in Deutschland 1885 の中で本書名を Die Welt, wie sie ist und wie sie sein sollte を附して記す。
- (2) Georg Adler 著 1810 年記 (a. a. O., S. 17) 誤謬なる事は明白なり。
- (3) Hermann Schüster, Die Anfänge der deutschen Arbeiterbewegung in Amerika. 1907. S. 57. Emil Kaler, a. a. O., S. 37.
- (4) 本同盟の成立、經過に關する詳細は拙稿「共產黨宣言前史の一齣」(三田學會雜誌第二十卷第六號)を参照せられ度し。
- (5) 人權俱樂部を初め佛蘭西結社運動に關しては目下詳細なる稿を得てゐる。他日發表の積りである。
- (6) Mehring, a. a. O., S. IX-X. 拙稿「共產黨宣言前史の一齣」(三田學會雜誌第二十卷第六號)を参照。
- (7) Schüster, a. a. O., 58.
- (8) 此問題に詳論する豫定であつたが、果す事が出来なかつたのは遺憾である。他日『調和と自由の保證』を論述する場合に譲る。
- (9) Kaler, a. a. O., S. 78. Fuchs, a. a. O., S. 612.
- (10) Schüster, a. a. O., S. 66-67. Kaler, a. a. O., S. 32. 拙稿「マルクシズム前史」(三田學會雜誌第廿二卷第一號)を参照。
- (11) Kaler, a. a. O., S. 32.
- (12) 前掲拙稿「マルクシズム前史」を参照。
- (13) 拙稿「瑞西時代のキルヘルム・ワイトリング」(三田學會雜誌第廿一卷第三號)を参照。

(14) Kaler, a. a. O., S. 78; Fuchs, a. a. O., S. 611.

(15) Schlier, a. a. O., S. 67-68.

## (III)

勞働者階級の貧困は如何にして發生するか。勞働と勞働に依て産出される財貨の不足せるに基くものであるか。ワイトリングは應へて謂ふ、

『爾等は晨に霜を戴き、夕に星を戴いて歸る。豊年が相次ぐ、穀倉は收穫物で滿つてゐる。然るに爾等の大多數の者は衣食住にすら事缺く有様である。額に汗して働く者の地上の財貨を享くる事極めて僅少である。何故であらうか。』

これ勞働と勞働に依て産出せられた財貨の分配が不平等だからである。貧困と富裕とは此不平等なる分配から生れる。何となれば富者ありて貧者あり、貧者ありて富者あるからである。

富貴權勢は正義に反する。富貴權勢の存する所には亦不義が存在する。天國は唯だ正義者のものである。

富裕若くは不義とは更に換言すれば勞働する事なくして他人以上の物を享得する權力と手段を持つ事の謂である。かくて他の者は富者のために勞働しなければならぬ。彼等は富者の用ふるものを無くて濟まさないといけないのだ。是がため爾等幾百萬の者は自分達には全く無用な勞働に従事しなければならぬ。

生活に事缺く人間の尙ほ存する限りは、萬人の生存と幸福とに必要ならざる總ての勞働は無用の勞働である。懸命に製作した奢侈品でも、之を持ち得ない多數の人々には何の役に立つてあらうか。而も是等多數の勞働者は用ひ方に依ては社會に有用なものである、何となれば生活に必要な勞働は彼等に依て輕減せらるるからである。……無數の怠惰者、彼等の安逸を充すために彼等に奉仕せる者、彼等の不正を庇護する軍隊を擧げ來れば爾等は有用なる業務を免かれたる者の數多き事に驚くであらう。

此人類の敵の不正義は汝の總ての精神力、肉體力を自己の利益のために利用するに甘せず、彼等の貪慾は財貨の平等なる享得を拒む、而も其財貨の最大最善の部分は彼等や彼等のために任意的に若くは強制的に勞働する側近者のために要求せらるる。これがため最善の生活必需品の價格は騰貴し、爾等の賃銀は、恒に下等品の極僅少しか購ひ得ない程度になつてじもう。死ぬまいとしても此以上與へて呉れる人はない、だから勞働しなければならぬ。而もこれは彼等の堪へ難き所である。肉とか他の食料品を街に齎すものがあれば上司とか、今日では皇帝といふ様なものが其の一番善い部分を要求する。次いで他の者は金塊を持って來て残りの部分を要求する。爾等は何物にもあり付かず、唯だのパンで腹を作らなければならぬ。

勞働者が貧困なればなる程、大商人や小賣商人のために勞働しなければならない。是等の大商人や小賣人は勞働者を踏臺にして金儲を考へてゐるのである。しかし是は決して彼等の惡意からではない、全社會の組織が高利制度に出來てゐるからである。そして正義者はパンを乞はなければならぬ。

労働者は小賣商人から必要品を購ふ場合でも少量づゝ求めて大量の購買が出来ないから高い物を買はなければならぬ。何となれば小賣商人でも自分の生活を立てて行き度いのは同様だからである。

労働者は亦信用を利用する場合でも高利貸に恐ろしい程高い利子を支拂はなければならぬが富者は之と反對に、假令自分の經營擴張に必要な資本を借入る場合でも唯だ普通の利子を支拂ひさへすれば済む。總て利子と租税とは他の名義で労働者の負擔となる。

高利貸の結果として生活資料其他の必要品の値段が騰貴しても、是がため税金支辨者も商人も僅少の負擔をすら負はない。全部の負擔を背負ものは矢張労働者である。

労働者はかゝる負擔の重荷に青息吐息の有様であるが、其大多數の者は今日尙ほ未だ自衛の道を知らないで居ると言ふ有様である。

(1) Weiling, a. a. O., S. 11-13.

#### (四)

労働者の斯ゝる悲惨なる運命は果して何に基くものであるか。彼等は動もすれば全く無辜な機械に其責を歸しやうとする。謂へらく、

現今の社會に於いて機械が発明せられ、完成されるればされる程、人類大多數の地位は愈々貧困となる。何となれば機械が存在しなければ幾百萬の有閑徒食の階級は自己の本能並に欲望充足のため總ての他の階級の努力を必要とする筈だからである。然るに僅少の人力に依て莫大なる生産を遂行

し得る機械が発明さるゝや、最早多數の労働者を必要とし無くなつた。かくして元來労働者の労働を容易ならしむべき職能を有てゐる機械の發明、建設は労働者の労働を援助する所か、却て彼等の貧困を助成するのが現状である。斯ゝる事態にして永續する以上、不正なる人々は、労働者が自己の境遇改善のために考案發明せしものを今後、益々彼等の賤むべき利己的目的のために用ふる事となるであらう。

併し乍ら貧困の原因は機械に在るのでは無い。機械は却て人力の到底及ばない力と敏活を人類に提供し、多くの労働と煩勞とを省いて呉れたのだ。將來建設さるべき共同社會では人類のために幸福と爲るものである。而らば貧困の原因は何處に存在するであらうか。

労働者は唯々時勢の非なるを歎訴するのみで其何故なるやを詮索する事稀である。否詮索しても其真相に觸れる事極めて稀である。

工場労働者は機械を呪ふ、手工業者はギルドの規約、營業の自由、上流社會の卑賤な奢侈を呪ふ、農民は豊凶年を訴へ、世人は生活資料の騰貴を訴へる。併し乍ら何れも肯綮に當てぬない。而らば貧困の根本的原因は何物であるか。ワイトリング應へて謂ふ『財貨の不平等なる分配、及び享樂並に財貨生産に對する労働分配の不平等即ち是である』。

現存社會の一切の不幸は、既に述べたるが如く財貨の不平等なる享樂分配並に其生産に必要な労働の不平等なる分配に基くものであるが、斯る嫌惡すべき社會の不幸を更に助成するものに貨幣と、地位不平等に起因する道德の頹廢とがある。



今日も貨幣が最早存在しなくなれば、否最早存在する事が出来なくなれば富者も貧者も懸て相携へて共同社會の生活を營まざるを得なくなる。併し乍ら今日の所謂貨幣が今後尙ほ存続する以上、世界は決して自由とはならない。貨幣導入以來人類は如何に貧困と不幸とに悩んだ事か。人類の總ゆる罪惡と缺陷を考察するに其大多數而も社會の安寧を害ふものは、貨幣が若し存在しなかつたらば發生しなかつたものであり、從て貨幣の消滅、共同社會の導入と共に消滅するものである事を知る。自由、平等を宣言し、王冠、貴族、地主を倒し、常備軍を廢し、富者に課税しても貨幣にして廢除せられざる限り人類の幸福は決して建設する事は出来ない。吾人の事業を完成するには、決して中途で止まる事なく、一步進みて貨幣に手を觸れなければならぬ。人類は救助を求めて戦てゐる。吾々の義務は此好期を逸せず利用する事である。假令、血や生命や自由を賭しても人類の完成を求めなければならぬ。

貨幣は人類の替罪羊である。貨幣の存続と不平等の享樂、勞働分配の不平等とは密接不離の關係を有する。貨幣の存する限り、階級別、缺乏、過剩、總ての罪惡は依然として同一である。

階級の不平等のために惹起せられる道德の頹廢は亦此人類の貧困を増大するに役立つ。貴族は商人よりも威張り、商人は手工業者より偉いと自負し、直接税を拂ふ親方は勞働者よりも遙かに偉いと信じて彼等を皆輕蔑する。かくして何れの階級に於いても他人より財産の多い者は他人に優ると考へてゐる。勞働者すら、新しい衣服を着けてゐるものに對しては、是を持たない勞働者は頭が擧がらないといふ有様である。斯る場合が勞働者に存する事は歎息すべき事である。其責は何れも勞働者の無智と怯懦とに存する。勞働者は自分が地上最も有用なる人間だと分れば、美しく装つた壓迫者や愚者の馬鹿氣た行爲の見習ひをしないうで彼等を尻目にかけるだけの勇氣が出来て來る。

要するに、現在社會の貧困は根本原因は財貨の不平等なる分配、享樂並に其生産に必要な勞働分配の不平等であつて、此貧困を保持し、助成する二原因は貨幣並に階級不平等に基く道德の頹廢に存するといふのがワイトリングの現行社會觀の骨子である。

(1) Weiting, a. a. O., S. 14 ff.

(2) Weiting, a. a. O., S. 15.

(3) Weiting, a. a. O., S. 15.

(4) Weiting, a. a. O., S. 15.

(5) Weiting, a. a. O., S. 16.

### (五)

ワイトリングの企畫する將來社會は財貨共有社會(共產社會)であるが、此社會の根本條件は節制といふ事である。無節制といふ事は總ゆる地上の幸福の破壊者であり、財貨共有社會の不倶戴天の敵である。

然るに翻て現行社會を觀るに、それは極端なる無節制の状態である。或る者は殆んど、否全く勞働を營む事無く、而も贅澤の限りを盡してゐる。之に反し、他の大多數の者は過度の勞働に従事し乍ら而も尙餓死しなければならぬと言ふ有様である。

財貨共有社會は決して、浪費家大酒家の特權ではない。何の心配も無く、不斷の幸福に生活し得る社會の共同的權利である。多數の人々は此權利を破壊しやうとは考へないであらう。何となれば其れは大多數の權利だからである。<sup>(5)</sup>

此社會が實現された場合、吾々の欲望は怎う成るであらうか。ワイ・リングは是に就いては極めて樂觀してゐる。謂へらく、吾々は幾多の欲望を持って何れも其満足を求めてゐる。吾々の窮乏を助け、吾々の幸福を保證して呉れる各種の財貨を求め、是を得るために勤勉力行する。希望と忍耐とは決して吾々を見棄てない。<sup>(6)</sup>

吾々の欲望が節制を失ひ、他人の權利を侵害しない限り遠慮なく其満足を申出れば、此社會は是等の欲望を充足して呉れる。併し中に並外れの大吃漢や飲酒家があつて、其欲望を充分充たさなければ不幸だと感ずる場合があるが、斯様な大食、大飲酒の性癖は習慣に基くものであつて修養に依て矯正する事が出来る。古諺にもある通り、生來、大食漢といふ者はない、仕込まれて大吃漢になるのだ。斯る例外的場合は之を無節制の罪と考へないで、一種の疾病と做して適當の治療法を講ずればよい。

社會的平等の状態に於いて吾々が仕事を成就しても其報酬を要求する必要はない。吾々は唯だ必要なものだけを求める事になる。

吾々は趣味嗜好に應じて食事をし度いと思ふ。斯様な事は此社會では貨幣を用ひないで日々是を行ふ事が出来る。

吾々は亦旅行し度いと思ふであらう。斯る事は全く御安い御用である。吾々は規定の労働時間後、簡単な旅行は毎日でも出来るのだ。徒歩でも三十里見當の場處に行けるし鐵道ならば優に三百里見當の旅行は出来る。<sup>(7)</sup>

將來社會では労働は怎う成るであらうか。ワイ・リングに據れば共產社會では労働は最早苦痛ではなくなる。寧ろ却て快樂となるといふのである。謂へらく

『労働は最早苦痛では無くなる。労働時間の短少と變化とに依て労働は快樂となる。一人の労働時間  
間は午前、他の一人の労働時間は午後、今一人の労働時間は夜といふ風である。労働時間の自分に最も都合な職業の労働者と一所になる。パン焼は終夜パンを焼く必要はない。半夜眠る事が出来る。今日工場で使用してゐる、燈油、明、瓦斯をば、劇場、舞踏場、講堂、讀書會、音樂會等のために使用する。生活並に幸福のために必要なる労働は、吾々が薄暗い燈火のために健康と視力を害ふ事を要求しない。何となれば吾々は最早贅澤なる怠惰者のために労働するのでは無い。自分達のために労働するのである。吾々に吾々の必要を充たすのみならず又財貨を豊富にするために労働するのである。<sup>(8)</sup>』

學問藝術は怎う成るであらうか。ワイ・リングに依れば、財貨共有社會が實現せられ、高利制度が消滅すれば、藝術と科學とは非常な進歩を遂げる。これは今日、百人中九九人まで缺けてゐる知識をば、人類が、差別なく習得する時と手段とが與えられるために彼等が非常に高い科學上の教養を受ける事になるからである。<sup>(9)</sup>

- (1) Weiting, a. a. O., S. 16.
- (2) Weiting, a. a. O., S. 17.
- (3) Weiting, a. a. O., S. 17.
- (4) Weiting, a. a. O., S. 18.
- (5) Weiting, a. a. O., S. 21.

(F)

財貨共有社會を實現するに先で、此社會が正義の要求に適へるの事實を信仰し且つ信頼しなければならぬ。信仰と信頼とを確立すれば其れ丈にても既に半ばこの正義を成就せしものである。信仰は泰山をも動す事が出る。見ずして唯だ信ずる事の出来るものは幸である。併し乍ら盲目的信仰は決して目的に到達し得る所以のものではない。其信仰は基督敎義と自然に基いた深き確信より生れ出でたものでなければならぬ。

ワイトリングは基督敎義と自然に基く此確信よりして、凡そ人類の眞の幸福は、財貨共有社會が左の如き根本原理を實現しなければ、到底不可能であると論じてゐる。

- (一) 自然法並に基督的愛の法則が社會の總ての法律の基礎となる事。
- (二) 全人類を遍く一大家族同盟に結合し、國籍、宗派等の狹隘なる概念を除去する事
- (三) 労働の平等なる分配並に生活資料の平等なる享樂
- (四) 自然法に基く兩性の平等なる教育並に平等なる權利及義務

- (五) 總ゆる相續權並に私有財産權の廢止
- (六) 普通選舉に依て行政部を任命する事、行政部は責任を負ひ、罷免し得る事
- (七) 生活資料の平等なる分配に當て、行政部の優先權を許さざる事、公務と他の労働時間とを平等の地位に置く事

- (八) 各自が出来るだけ行動並に言論の自由を有する事
- (九) 總ての人に其精神的並に肉體的資質の行使及完成の自由及手段を附與する事
- (十) 犯罪者は唯だ、其自由及び平等の權利のみを罰して、生命に及ぼさざる事、其名譽を罰する場合は、社會より終身の破門、追放を以て行ふ事

是等の根本原理は要するに自己を愛する様に隣人を愛せよといふ事である。是等の原理無くば、是等の原理の實現なくば人類の眞の幸福は到底期待する事は出来無い。數千年來人類の涙を絞つた幾多の慘禍は、諸民族が此等原理の實現に努力すれば自ら消滅するであらう。財貨共有社會の目的は人類の眞正の幸福であるが、併し乍ら、ワイトリングは此社會を直ちに社會改造の最完全なる理想であるとは斷言しない。個人に於けると同様に時代に依て完全性の概念も相異して来る。人類は完全に益、接近する事は出来るが、一舉にして、此完全に到達する事は出来な

5。完全それは萬能の神である。是に到達しやうとする事は神に模倣する事である。

(1) Weiting, a. a. O., S. 23.

(a) Weiling, a. a. O., S. 23-24.

(b) Weiling, a. a. O., S. 27.

## (七)

共產社會成立の根本條件は以上述べた通りであるが、次に彼に依て描かれたるユウトピア即ち彼の所謂人類大家族同盟 *das grosse Familienbund der Menschheit* の構造を述べやう。

フイトリングに依れば、個人的たると社會的たるとを問はず、凡そ人類生活の三個の根本條件は勞働と享樂である。最完全の社會的協同生活は、此二個の條件をば、自然法及基督的愛に依て行動する總ての社會各員の間に平等に分配する事に存する。

地上の幸福並に神に近い完成の最高の理想であり、其の最も鞏固なる基礎は社會的平等であるが、此社會的平等は二個の組織、即ち家族組織 *die Familienordnung* 若くは享樂の組織 *die Ordnung des Genusses* 及び業務組織 *die Geschäftsordnung* を俟て初めて實現せられる。

家族組織は家長の監督を受ける家族から成る。約十家族が家族組合を造り、組合役員會を選定する。十家族組合で家族區 *Der Familienkreis* を造り區役員會を選定する。

各區役員會は夫々大家族同盟の議會に一名の代議士を選ぶ。此議會は大家族同盟の最高立法應たる元老院を選ぶ。

業務組織は農民階級、工人階級、學者階級、及び産業軍隊から成る。

農民階級は、農民拾名で一隊を造り、其勞働の監督者並に指揮者として隊長を選出する。隊長拾

九名で、一名の耕作者 *Ackermann* を選出する。耕作者は百名の業務指揮者であり彼に指令せられた勞働を隊長の間に平等に分配し、其勞働が忠實に而も几帳面に遂行されるや否やを監督する。耕作者拾名の中から代表者一名を農業會議に送る。

農業會議は穀物耕作、葡萄栽培、忽布栽培、桑樹栽培、養蜂、飼羊等農業の各部門から、夫々一名の長官を選出して大家族同盟の内閣に送る。

此内閣は斯様に、農民階級、工人階級、學者階級選出の長官を以て組織される。

## 工人階級

手工業、藝術、機械工業、工場勞働に従事せる者は總て此階級に屬する。

農民階級の場合と同様、拾名毎に一名の業務指揮者、百名毎に一名の親方を選び、親方拾名毎に一名の工人監督官を選ぶ。

百名の工人監督官所在地に、一個の名人組合を置く。名人組合は、全社會に有益なる發明をなした勞働者から成る。名人組合は夫々其地方の百名の工人監督官と協同して、工業委員會に一名の代表を送る。此委員會は丁度農民階級に於ける農業會議の如きもので、特殊な工業部門から夫々一名の長官を大家族同盟の内閣に送る。

名人は、教育所で受けた豫備知識を以て同時に此二階級に歸屬する。そして此二階級で、夫々自己の性向に準じて各種の部門で働く事が出来る。そんな譯であるから、工業に於いて工人監督官が收穫時に若くは必要時に、一介の勞働者として耕作に協働することも有り得る譯である。

各人は自己の希望に依て同時に一種若くは數種の業務に従事する事が出来る。此目的のために勞働は總て二時間毎に交代する。

### 學者階級

業務組織の三部門を通じて、多年の研究を要する地位を占むる者は此階級に屬する。

此目的のために各家族組合は教育所を持つてゐる。各家族區は多數の工藝學校の外に高等學校を有する。十家族區毎に若くは百萬人毎に一個の大學を有する。

大家族同盟の教授は各學部から夫々内閣に一名の長官を選ぶ。

此の外、各大學即ち、瀧奥を極めた研究生は、學者委員會に十名の代表を送る。

此學者委員會は農業會議や工業委員會と同様に改選期まで會合を續ける。

元老院は學者委員會から教授を選出し、彼等を學者階級の重要な地位に任命する。同様に、農業會議から其指揮者若くは監督者を選出し、工業委員會から大工場の支配人及び簿記係を選出する。専門家は何れも何等かの手工業の實際を體得しなければならぬ。これは、自己の専門が規定の勞働時間を要しない場合、其時間塞ぎをするためである。

各人は何れも差別無く、自己の性向に應じて、教育を受ける事が出来る。

大學並に高等學校の教育は特に優秀なる學生に限り、勞働時間として計算される。

### 産業軍隊

總て體力強健な人間は三年間産業軍隊に服役する義務がある。服役年齢は十五歳から十八歳迄で、

勞働時間は他の産業部門に於けると同様である。

彼等は百名毎に監督官を選ぶ。其他科學的知識を必要とする各種勞働指揮者は専門家の中から任命される。

監督官の被選舉資格は、服役期限後、尙ほ軍隊に止まれる者に限る。

彼等は勞働時間の外、教育所に這入る事が出来る。三年の服役期間中、自己の好める職業の知識を修得したり、若くは服役前自修せるもの或は學校にて修得せる職業を更に練習して皆得する。

三年後、何等の豫備知識を習得しなかつた者は、尙ほ當分、軍隊に殘留する。此場合には勿論監督者としての被選舉資格を得る。

軍隊は各部隊に別れ、各部隊は何れも夫々、特殊の勞働に従事する。

今、或る部隊に志願者が不足せる場合には、満員の部隊で抽籤に依て何人が此弱少部隊に服務すべきやを決定する。

自發的に總ての苦役に服務する名譽部隊なるものがある。此部隊に一年間自發的に服務せしものは餘す二年の服役を免除される。

選舉權若くは丁年は義務的服役期間後に受ける。それまで義務的勞働の遂行に關して、規律正しく士官に服従する。

産業軍隊は、軍事的に組織せられ直接元老院の指揮を受ける。地方で勞働する場合には其地方の家族に分宿する。此目的のために各戸に客間を設ける。

長期間に亘て無人郷で義務的勞働を行ふ場合には、このため簡易住宅を造る。彼等は總て元老院指令の業務に従事するの義務を有する。

彼等の従事する最も重要な勞働は、鑛山業、鐵道、防波堤の建設、運河、道路、橋梁の架設、森林の開發、沼澤地の排水、不毛地の開墾、車輛及生産物の輸送、港灣の浚渫、道路、建築物の掃除、並に植民である。

少年時代から斯る勞働に依て身體を練習すれば、體て、顔色蒼白、神經質で病身な人々は無くなり、心身共に強健なる新しい人種が生れるであらう。

## (八)

## 元老院及内閣

元老院は家族組織より是を選舉し、大家族同盟の最高執行廳である。

家族組織は萬人の欲望を規定し、業務組織は欲望充足の手段を規定す。

家族組織若くは、萬人欲望の平等なる分配に關して、元老院は、十家族區若くは約百萬人毎に一名の監督官を設置して行政を容易ならしめる。

監督官は各地方の總産物から該地方の需要を差引いた餘剩物を綿密に計算して元老院に通告する、原料品、加工品の分配に關しても亦同様である。

元老院は全監督官の作製した明細書に依て大同盟各員の欲望の數量並性質を詳細に知り且つ計算する。其に次いで勞働明細書が内閣から元老院に移される。元老院では是を分配する。特定種類の

勞働の代表者が夫々其分配せられた勞働を受取る。例之、建築家が建築、指物師が家具製作、一人の農業家が葡萄栽培、他の農業家が穀物耕作、化學者が鑛山業を引き受けるといふ風に夫々特定の勞働の代表者が勞働の割當を受ける。

代表者は是を主事、工人監督官産業軍の高級將校に分配する。彼等は又是を各員に夫々振り當てる。元老院の事務は、各業務から此處に選出せられた代表者に依て執行される。元老院は、榮譽、住居、衣服、學問、藝術、娛樂等の如き萬人の幸福に必要な問題を司る。

元老院の改選は毎年若くは三年毎に行はれる。改選期には常に元老院の三分の一のみを改選する。元老院三分一の満期と同時に、議會三分一の満期となる。元老院の決議は三分二の多數決で行ふが若し、元老院が此多數に充たざる時は、議會の絶對多數を以て是を行ふ。

再度若くは數度内閣員に選出された場合、通常新任期は倍加する。業務組織では女性も男性と同様に選舉、被選舉資格を有する。

## (九)

## 取引時間

勞働及生活財の平等分配だけでは尙ほ人類永遠の幸福は覺束ない。嚴密に分割される千篇一律の平等は恰も、旅に疲れ、飢餓に迫れる異國人に恵れた不味い食物の如きものである。當初は飢餓に委せて食り喰ふが、體て日を逐ふて次第に不味い物となり、最後に嫌にさへなつてしまふ。劃一的平等は却て人類に倦怠ををすら與える。斯る倦怠を避けるためには、恒に激溼たる人間の精神に自

由活動の餘地を與えなければならぬ。

勿論嚴格なる財貨共有社會は六時間の勞働時間の外、總ゆる科學上の教育や公共的祝典並に娛樂に依て人間の精神に充分の仕事と充分の慰安を保證する事が出来る。併し乍ら、中には、自己の自由なる意思並に慾望から行動する事が許されなければ到底幸福を感じない熱情的人間が存在する。

斯く斯くの日には勞働し度く無いと思ふ人もあるし、同盟の支給する衣服や家具が氣に入らぬ人もある。又或る人は一般猷立表に無い飲食をし度いと思ふ。金側時打懐中時計の欲しい人もあるし、置時計を欲しがる人もあらう。斯様に各人は各、特殊の希望、慾情を持つてゐる。かゝる慾望は人間精神の不斷の活動に依て今後益々増加するであらう。此人間精神の活動範圍は、益々擴大する。何故と言ふに、財貨共有社會が平和裡に今後二十年も堅實なる發展を遂ぐれば、萬人の幸福と生活享樂に必要な勞働時間は日々五時間から恐らく三時間位に減ずるに至るからである。

其處で個人的自由の原則と社會的平等の原則とを內的に融和せしめなければならぬ。勿論是がため慾望の激増を見る事になるであらうが、是は少しも社會全體の負擔となる事はない。何故といふに此不必要なる慾望の充足を願ふ人丈けが其負擔を荷へばよい事になるからである。

斯くの如く、社會的平等の限界内に於いて、個人的自由の伸張を正當に規定すれば、人類は應て地上の完全てふ今日考ふる事すら出來ない最高の理想に到達する。其處には人爲的法律の自由も平等も最早必要で無くなり、愛と協和とが彼等の第二の天性と爲る。

斯の如く財貨共有社會を建設するに際して、勞働と享樂との劃一的平等丈けでは、尙ほ人類の永

遠の幸福を保證するに充分では無い。更に人類の各種の性向に對し、他人の權利を侵害せざる限り、是が天性の自由本能に活動の餘地を供しなければならぬ。是が爲めには一般的規定の勞働時間の外尙ほ任意的勞働時間を各人に許さなければならぬ。此一般的規定の勞働時間以外、各人の個人的自由を尊重する意味に於いて設定された任意的勞働時間を稱して、取引時間 *die Commerzstunden* と呼ぶ。

而らば此の取引時間制運用の方法如何。

此取引時間は最早勞働に従事する事無き古老の監督の下に行はれる。社會の各員は、夫々取引時間を記入する手帖を所持する。此手帖を取引手帖 *Commerzbuch* と云ふ。

或る仕事に於ける勞働者が満員となれば、其仕事に於いて取引時間は許されぬ事になる。最も多くの勞働者を必要とする仕事では、常に取引時間を行ふ事が出来る。併し産業軍隊にては如何なる仕事に於いても取引時間を禁止される事が無い。

家族組合若くは家族區は、必需品では無いが併し、各員の種々な性向に適應する各種物品の製作のために仕事場若くは工場を設立する。此處で製作された物品は同盟の所屬の倉庫並に陳列室に引渡され、爰で取引時間と看做される。此陳列室は古老若くは他の勞働の全く不能な人の監督の下に在る。總て此處で生産された物品は勞働時間に依て計算される。

今勞働者が國民服以外に斯斯の衣服や必需品で無い物品を得度いと思へば、自己の取引手帖から該當の取引時間を抹消し、陳列室の大手帖に當該物品生産所要時間を計算して記入する。斯様にし

て、不必要品製作労働時間は、斯る物品使用者に依て償はれる。是がため社會は何等の損失を受け無い。個人は裨益する。何となれば、斯くの如く労働時間を交換するに際し、唯だ労働者に補償すれば宜しいので、今日の如く高利貸や怠惰者の私腹を肥やす必要がないからである。此場合總ての生産物の價値は労働時間に依て計算せられる。

總て取引時間に依て取得した物品は其取得者死没後は陳列室に引渡され、再び取引時間と看做される。斯様にして取引時間に剩餘が生じた場合は、恒に一般的業務閉鎖の手段に訴へて是を平均する。此業務閉鎖は、産業軍隊、若くは農民階級の各種労働を通じて取引時間が同量となるまで是を行ふ。

農民階級の仕事が緊急を要する場合は、收穫期に際して恒に一般的業務閉鎖を行ふ。斯る、手段に依て業務組織に常に適宜の均衡を保たしめ有益且つ緊急の業務に對し恒に充分の自發的労働者を得る事が出来る。

總ての貨幣、總ての金銀を溶解して、一般的使用品を作製する。取引時間の記入簿は貨幣の代用物となる。

嘗てニバルタ人は、富者の蓄財を妨げるために大形の鐵片を使用し、豫め酢にて冷却し、若し是を他の目的に使用する場合腐敗する様にした。又此鐵片が餘りに大形で過度の蓄積も出來ず、隨て不平等の發生を妨げた。

紙料、印刷術が發明せられて以來、人類は高利貸を妨げ、社會的平等を維持する有力なる手段を發見したのだ。人類は宜しく一刻も早く此方法を利用し度いものである。

此取引時間の方法に依て人類の總ゆる性向に門戸が開かれた。是がため奢侈品の使用すら減少する所か却て從來に比して増加するであらう。併し乍ら此奢侈品の使用が餘り放縱に流れて善良なる風俗を害せざらんがため、役員は、社會全體が取引時間のために有害なる影響を蒙らざる様、取引時間を適宜伸縮するの權利を有する。

斯る目的を達する有力なる手段は業務閉鎖である。

## (十)

## 「名人組合、發明特許、裁判權、感化院」

名人組合は社會のために有益な發明、發見をした人々から組織される。此組合員は業務組織に於いては千名以上の被選出者と同等の選舉權を有する。特許期間中は何等一定の労働時間に拘束さるゝ事が無い。組合員も他の者と同様、取引時間を營む事が出来るが少くとも其時間の三分一を工藝學校に於ける子弟の教育に従事しなければならぬ。

名人組合は各産業部門に於いて成就せられた新發明、新發見の効用の有無を試験し、其特許期間を定める。是がため各産業部門には出來るだけ、一個若は數個の名人組合を設置する。

斯くの如き特許の結果として、社會は科學的にも産業上にも進歩し、萬人の安寧と幸福とは促進せられる。何故と言ふに、知識の増進と完成とは、總ゆる物を鼓舞激勵する社會の精靈であるからである。



特許の條件は新發明、新發見が果して、一般社會に有益なるや否やの一事に懸る。新發明者新發見者は既に社會に對し、自己の精神力の卓越せる事と、是を有益に利用せし事の證據を示し、且つ今後も亦社會に對して、極めて重要な奉仕を提供し得る人々であるから、彼等に時間利用の自由を與ふる事は決して安逸遊懶を獎勵する事ではなく、寧ろ新發明、新發見を促して社會の進歩を促かすためである。

裁判權は品行方正の老人に與へられる。

家族區の選舉に依て三十名が選ばれて、裁判委員會を組織する。更に其中より各六名の原告側と被告側とを選出する。更に此兩側は、夫々相手側選出者から三名を除外する權利を有する。結局殘る六名を以て被告の有罪無罪を決定する。

産業軍隊では高級將校、教育所では、父並に教師が未だ選舉適齡に達しない部下の人々に對する裁判權を有する。

刑罰の規定としては、犯罪のため危害を受けた勞働者若くは家族の區域から、一時若くは、終身の追放、公共的祝祭及娛樂參加の除外、取引手帖からの抹消、肉食、飲酒等の禁止、感化院收容、鑛山及植民地への流謫等がある。

産業軍隊には贖罪隊があつて、犯罪者は入隊して罪惡を懺悔する事が出来る

### (十一)

家族組合員は五個の共同建物に起居する。ロバート・オオエンの New Harmony の組合建物は正方形であり、フウリエエの Phalanstere はエルサイユ宮殿並に中世寺院を模した「調和」を表徴する略々馬蹄形の家屋であるが、此家族組合員の起居する五個の建物は五角形を成してゐる。此五角形建物の中心には家族組合所屬の建物があつて、其中には、組合員の住宅及事務所、教育所、倉庫、郵便局、運輸局、旅行者、並に産業軍隊の宿舍、國民講堂、劇場、天文臺、電信所がある。附近に組合共同の庭園がある。

共同建物は組合役員以外の、總ての家族組合員の住居である。五個の共同建物には各棟とも國民講堂、舞踏室、食堂、圖書室、電信室、工藝學校、貯藏所、陳列室がある。建物の内部は便利、美觀、經濟を旨として設計されてゐる。此目的のために、内部の道路には風雨防護のため硝子天井を以て蓋ひ、夏期には冷却のため適當の拙窓の設備がある。更に建物の建築法は、建物内部が同溫度に溫暖られ、物品運搬が内部の交通を妨げざる事を旨としてゐる。共同建物と中央の組合建物とは鐵道を以て連絡される。共同建物は此中央の組合建物から五時間の處に在るが組合全體は約三十分にして集會する事が出来る。

各家族は夫々設備最も完全なる廣い住宅を有つてゐる。其上一個の庭園が附屬してゐる。家族の清潔整頓は各家族員の義務である。父又は家長が此義務の履行を監視する。

子供は六才迄家族に在つて、それから學校に收容される。

家族は相互に共同的調理場を持つてゐる。料理番は日々の必需品を組合倉庫から受取る。組合倉庫は月々の必需品を區倉庫から受取る。區は、年々の糧食をば元老院の指定通りに受取る。

景氣不景氣、豊凶、四季の産物、住民の嗜好に依て食物の選擇、献立の貧豊を定める。<sup>6)</sup> 各家族區には、各家族が其趣味に應じて造つた家庭園の外、共同の一大庭園がある。此庭園の果實は共同食卓の食後の果物とする。

漫遊客は何れも自己の滞在する、家、家族では平等の賓客權を有する。公務を帯び無いで、一般規定の労働時間以上滞在せし場合には、其れ丈の労働を營む義務を有する。然らざる時は其れだけ取引時間から抹消される。

旅行者には總ゆる旅行上の便宜が與へられるが、殊に公用旅行者には船車利用の優占權が與へられる。<sup>6)</sup>

便利、美觀、經濟を旨とする新建築物の設計は内閣是を行ひ、元老院の承認を経た後、公共造營長官及選舉人に依て實施される。

衣服並に建築、家具の材料も均しく内閣の計畫に依て製造提供される。併し其裁方、體裁は組合役員が各産業に於ける工人監督と相談の上是を決定する。

組合規定の家具、衣服製作に要する労働時間は内閣規定の労働時間に超過する事を許さず、若し超過せし場合には、取引時間に依て是を相殺する。<sup>6)</sup>

(1) Weiting, a. a. O., S. 33.

(2) Weiting, a. a. O., S. 33.

(3) Weiting, a. a. O., S. 34.

(4) Weiting, a. a. O., S. 34.

### (十一)

將來社會に於ける計畫經濟の結果として發生する労働經濟、生産力の膨脹等の事實は、多かれ少なかれ、既にフウリエエ、オオエンを初めマルクス等幾多社會改良家の着目せし所であるが、爰にワイトリングも亦、其論旨多少稚拙の嫌はあるが、均しく此點を力説してゐる。

今日農民が大道で靴の毀損を恐れて之を手に取り、手工業青年が恰も蝸の様に懸命に重荷を扱摺つてゐるのを吾々は屢、見受ける。而も馬も車も靴も無い譯ではないのだ。共產社會では斯ゝる自己虐待は最早必要としないのだ。農民は車で耕作地に往來するし、彼等の労働は、雨や太陽の灼熱を避けるため、運搬自由の天幕の下で行はれる。今日一千六百人の食事を用意するに三百の爐竈を必要するが、是も三個で充分となる。暖房並に火仕事の場合も之と同様である。燃料も今日の九分の一に節減出來やう。<sup>6)</sup>

今日百人からの牛乳配達女が毎日、半日を町で徒費してゐるが是も一人の女と一臺の牛乳車で足りる事にならう。それから市の日に背一杯擔て町に來る農民や終日天秤皿を持って歩いてゐる小間物商人、紙袋製造人の不必要な勞力、無用の時間の浪費等に就ても亦同様である。將來社會では其の十分の一の勞力で社會に對し、同様の奉仕を行ふ事が出來る上に、詐欺、偽造に逢ふ心配が毛頭無いのである。

一地方に於ける生産物の不足と言ふ事も、若し他の地方に斯ゝる産物が豊富に存在すれば、實際

には感ぜられ無くなるであらう。<sup>5)</sup>

交通機關の發達は分業の發展を促し、其産物を有無相通ずるの效果ある事は現今に於いては周知の見解であるがワイトリングは此事實を得意氣に力説して居る。謂へらく、僅かに馬鈴薯のみ生育する地方の人は一杯の葡萄酒すら飲む事は出来ないし又葡萄栽培者は一片の肉すら口にすること出来ないのが現状である、然るに將來社會では鐵道、汽車に依て恐らく各地方間の距離が十分の一に縮少されるであらう。總ての果實が是に最も適當せる土壤、及氣候に栽培されるであらう。穀物の好く出来る地方では最早、馬鈴薯、煙草、燕菁を栽培したり、葡萄産地に穀物類を栽培する必要は無くなるであらう。耕作地を牧場に變へたり牧場を耕作地に變へる必要も無くなるであらう。牧場地方で、住民生活必要の作物を栽培する耕地を得るために牧畜を減縮する必要も無くなるであらう。尙又占有の破壊、常備軍廢止、更に鐵道の普及の結果として馬匹の節約が出来る。更に總ての不必要な境界、柵、墓が撤去せられ、總ての人は耕作に参加し、喜々として愉快に懸命に皆と共に勞働に従事する。而も相互に愛を持てゐる。斯くて彼等は最早今日の奴隸では無く、其勞働は一日として彼等を過勞に陥る事は無くなり、豊富健全なる滋養は常に彼等の消耗せる精力を償ふて充分である。<sup>6)</sup>

以上述べたるが如き諸般の利益は何人も直らに首肯し得る所であつて、其結果として財貨共有社會實施五年にして既に三倍の生産増加を見る事は容易に想像出来る。<sup>7)</sup>

今日、吾々の窮乏は決して、必需品生産の寡少なるに基くのでは無く、其分配不平等なるに基く

ものである。従て財貨共有社會の導入に依て生産力三倍となれば老大人なる生産物の豊富を保證する事が出来る。而も生産物豊富となれば、各人の利害が衝突する虞も無くなり、社會は唯だ一般的福利並に食事の歡喜を毀さざらんがために無節制を罪惡として矯正すれば宜しい。

勿論、財貨共有社會實施後最初の十四日間、此無節制のために倉庫を蹂躪されるであらうが、併し、是は一時的の現象であつて、飢餓せる欲望の満足と共に、漸次消滅するであらう。凡そ人間の貪慾なるは、是を獲得する事困難なる場合に限る。常に食卓を賑はせば、恰も現今の腐敗せる社會に於いて飢餓と共に益増加すると正反對に、無節制は次第に減少するであらう。

又戰爭のために國民召集が行はれ、多數の倉庫が燒失し、掠奪さるゝと言ふが如き非常時に際しては、欲望を嚴密に測定する手段を必要とする。斯ゝる非常時には最大の犠牲を拂はなければならぬ。其場合に同盟員は軍隊の必需品を差引いた残物を相互に分割して満足しなければならぬ。此れは吾等戰鬥員が窮乏に苦しむ事なきためである。吾々は共に斯る窮乏に堪えなければならぬ。戰時人口一百万の地方で、其中二拾萬人が平等のため武器を採れば残る人々は、六時間の規定労働時間の外、戰爭の繼續する間、必要なる貨物の生産に支障を來さしめざるため更に日三時間、餘分の労働を營まなければならぬ。かゝる非常の犠牲を拂ても現今の文明に生息する大多數者に較れば肉體的、道徳的關係に於いて遙かに幸福な生活を營む事が出来る。<sup>8)</sup>

是に依て見れば、財貨共有社會は常に平時に於けるのみならず亦戰時に於いても斯の如き著しき利益あるを見る。斯ゝる利益は他の制度の到底企及し能はざる所である。人口三四百萬の小地域を

以て、非常時に際し、全歐洲を向に廻して而も勝利を博する事が出来る。何故と言ふに敵が前進する毎に味方の勇氣、努力は倍加し、敵の後退毎に、同胞を解放し、戰鬥手段を益々鞏固ならしめる事が出来るからである。<sup>(6)</sup>

爰に興味あるのはワイトリングの言語改造論である。人類相互の協和が言語の相違より來る意志交換の不能のために屢々破綻の憂を見る事は爾來史實の明かに示す所であるが、ワイトリングは此現象に鑑て、將來社會の建設に際し、世界語の創造を提唱してゐる。謂へらく、

『財貨共有社會導入後第一日目には國語の外に既知の死語若くは新言語を世界語として、教育所で教授するであらう。第二日目には、此世界語を總ゆる業務會合、家族會合に使用する事となり、第三代目に到れば、總ゆる國語は消滅して唯、一つの言語を使用するに到るであらうと』<sup>(7)</sup>

此世界語の如何なる物なるやに關してはワイトリングは何等の説明を與へてはゐないが後年、例之一八四四年以降英國滯在中、更に四八年獨逸滯在中、言語學の研究に没頭し、是に關する著作出版の意向ありし事實に徴しても、彼の世界語創造の提唱は決して彼が一時的の落想では無い事が分る。言語は獨り、言語學者の占有物でも無ければ、社會改造家の末技でも無い。言語の相異が人類の生活に幾多の陰翳を投じた事實に鑑れば、從來の社會改造家が何れも其改造案の綱領に此點を看過せし事は寧ろ意外に屬する。逸早く此點に着目したワイトリングの徹眼は、彼が從來の社會改造論者に嶄然凌駕する所以であらう。

以上稍々詳細に彼のユウトピア、即ち財貨共有社會の構成を敘述した。併し乍らワイトリングは此財貨共有社會を以て、人類生活を幸福に導く最も完全無缺の理想社會であるとは、決して主張し無い。蓋し彼に據れば完全、其れは萬能の神であり、人間の努力は、唯だ此完全に到達せんと力むるに過ぎないからである。<sup>(8)</sup>

加之、ワイトリングは彼が提案した財貨共有社會の構成も決して唯一、絶對のものとは考へて居ない。彼、謂へらく、構成上の選擇は社會其者並に、社會成員多數者の自由であり、多くは其時代の事情に左右せられる。縱令、此財貨共有社會構成上に各種の相違が存在しても、目的は何れも同じ、全人類家族同盟の實現に存する。縱令、社會狀態の完成が其途上、重大なる障礙に逢會しても、而もそれは、吾々の努力の固定不動の目的である。鎖も死も到底吾々の決心を搖がす事は出来ない。<sup>(9)</sup> 更に謂ふ、財貨共有社會は、人類の救世手段である。此社會は義務を權利に變へ、多數の犯罪を根本より除去する事に依て、此地上を、恰も樂園に變へる。掠奪、殺人、貪慾、竊盜、乞食等の嫌ふべき言葉は國民の用語から無くなり、世界史の書籍のみが是等の悲痛なる意義を説明し、吾々の子孫は是を聽いて戰慄するであらうと。<sup>(10)</sup>

既に財貨共有社會の本質にして斯くの如しとすれば、如何なる方法に依て是を實現すべきか。爰に革命論が問題となつて來る。社會思想の研究に於いて、將來社會の本質の闡明と共に重要なるは此革命論である。以下ワイトリングの革命論を述べやう。

(1) Weiting, a. a. O., 43.

(2) Weiting, a. a. O., S. 43.

- (3) Weiting, a. a. O., S. 43-44.
- (4) Weiting, a. a. O., S. 44.
- (5) Weiting, a. a. O. S. 45.
- (6) Weiting, a. a. O., S. 45-46.
- (7) Weiting, a. a. O. S. 46.
- (8) Weiting, a. a. O., S. 27.
- (9) Weiting, a. a. O., S. 27.
- (10) Weiting, a. a. O., S. 47-48.

## (十三)

『人類の現實と理想』の大部分は理想社會の描寫に費やされて、此目的に到達する方法に關して言及する事充分で無いので、彼の革命觀の全幅を摺む事は容易ではない。加之、彼の革命觀は後年幾多の變化を受けてゐるので、爰に現はれたる見解を以て直ちに後年を推す事は固より肯綮を得てゐない。此意味に於いて爰に述べる所のものは彼の初期革命觀と言ふべきであらう。

既に述べた如く『人類の現實と理想』は一八三八年、巴里正義者同盟の委嘱に依り、該同盟の信條として書下されたものであるから、一應當時に於ける巴里の事情を一瞥する事は、本書に現はれた彼の革命論を理解するの一助となるであらう。

ワイトリングが巴里正義者同盟の會員となつた當時、該同盟は既に *Blancq*, *Bardès* 等を首班とする季節俱樂部 *Société des saisons* と密接な關係を結び、該同盟は恰も季節俱樂部の獨逸支部の觀

ある位であつた。季節俱樂部の指導原理はバブウヰズムであつた。従て正義者同盟も亦此影響を受けて其政治的術策は殆んどバブウヰズムであつた。此バブウヰズムの本質は陰謀一揆等の暴力革命に依て政權を奪取し、新社會秩序を創造し得るとの信念に存する。同盟の領袖ワイトリングも又影響の圈外に立つて居なかつた。本書に現はれたる彼の革命觀は固より必ずしも、バブウヰズムに終始するものでは無く、否、寧ろ之と異なる多くのものを含んでゐるが、併し前記の事實を念頭に置く事に依て彼の見解は一層明白の度を増すであらう。

ワイトリングは革命の準備行爲として先づ大衆啓蒙の必要を説く。謂へらく、

『自己の勞働に辛じて生活せる大衆は、一つは吾々が彼等に提供する物質的利益のため、他は富貴權勢に對する憎惡のために吾々の旗下に加はる事は慥かである。

併し乍ら大衆をして總ゆる示唆、誘惑に拮抗し、正義の思はざる挫折のために信念を動搖せしめざるに足る堅固なる確信を抱しむるには、財貨共有社會の眞狀を大衆に解明する新學說の使徒が必要である。

又、舊制度顛覆後、國民をして速かに新社會秩序に習熟せしめ、或は無政府状態に陥り或は暴君の手中に陥らしめざるため、豫め彼等の啓蒙が必要である。

同胞に目的への道を示し、邪道に陥らざる様警戒する事は神聖なる義務である。屢々議論せられ、未だ何處にも實現せられざる一大真理を胸中に懷抱せる人は重大な責務を負へるものである』との併し乍ら彼は此社會變革の準備としての大衆の教化に對しては左程重きを置いては居ない様であ

る。後述するが如く、彼は社會變革に於ける少數者の殉教者的行動に對して讚仰を禁じ得ないものの如くである。

而らば如何なる方法に依て財貨共有社會を實現すべきか。ワイトリングが其方法として擧ぐる所のものは極めて抽象的である。曰く叡智、勇氣、博愛即ち之である。彼謂へらく、

『蛇の如く敏く、鳩の如く優しく、而して肉體を殺す者を恐るゝ勿れ。』

博愛は強力なる武器を有する軍隊を吾等に與へる。

叡智は吾が敵の武器を剝奪する。そして勇氣は敵を克服する一切の機會を掴む。

抑壓者の課税を劫け、抑壓者の警吏と憲兵を逐ひ拂ふだけの勇氣を持つ人は暴君を打倒す人と全く同様の功績を建てた者である。併し乍ら暴君の涙金を得て、同胞のために斷頭臺と牢獄とを造り、又殺人者が獲物を探してゐるのを拱手傍觀したり、若しくは、犠牲者の拽摺られ行くのを冷然と見送る人は警吏よりも賤むべく又哀れなる奴隸よりも更に憐むべきものである。斯様な臆病者の名は人類から抹消すべきである。何となれば彼等の名は子孫の追憶に價しないからである』と。更に謂ふ『汝が信念のために戦ふの勇氣と決心との證據を與へよ。吾々は最早貧困と抑壓に甘ぜずと汝の旗幟に記せ』と。

從來斯種の革命は何故に蹉跌したか。彼に據れば、何れも、此三要件の何れかを缺如してゐたからである。

スバルタ人は五百年の間、財貨共有社會に生活した。彼等は叡智勇氣に缺ぐる所はなかつたが、博愛を缺いてゐた。彼等は勞働しないで、戦争で獲得して相互に分配した捕虜をして彼等のために勞働すべく強制した。彼等は、働かざるものは食ふべからずとの格言を知らなかつた。其處で彼等の制度は没落したのだ。

十六世紀、獨逸の政治地平線は重大なる事變を孕んでゐた。ザクセンの新教の牧師、トオマス・ミンツェル(Thomas Münzer)は財貨共有社會を説き、諸市より富者を驅逐し、多數の信徒を得た。併し乍ら彼には勇氣が缺けてゐた。敵の軍勢が押寄せた時、彼は陣營に在つた三萬の軍隊に天空の虹を指示して天使の來援を告げ、戦ふ事を禁じた。彼等は苦も無く撃破せられた。

同時代、裁縫師ヨハン・フォン・ライデン Johann von Leiden はエストフアレンのミュンスタア Münster で均しく財貨共有社會を唱へて、市街より富者を驅逐し、自ら地上の國王と布告した。後ミュンスタア包圍攻撃を受け、裏切られて敵の術中に陥り、無慘の最後を遂げた。併し彼の死は決して殉教者の死ではなかつた。何故と言ふに、彼は自己の名譽心のために純潔なる教義を瀆してしまつたからである』と。

既に述べたワイトリングに據れば、是等革命の敗因は叡智、勇氣、博愛の三要素を具備せざるに依る。其處で今後の革命は必ず此三要素を具備しなければ決して成功するものではない。彼は謂ふ『斯くて叡智を汝の指南車たらしめ、勇氣を汝の楯と武器たらしめ、而して博愛を汝の合言葉たらしめよ。何故なら是等の目標に依て、汝は勝利するであらうから』と。

將來社會實現の方法は既述の如く、叡智、勇氣、博愛であるが、此革命に當てワイトリングは必ず

しも暴力を否定するものではない。否、殆んど總ての場合を通じて暴力の必然的隨伴を説いてゐる。將來社會の實現手段として博愛を高唱する彼が暴力は認論者たるは誠に皮肉な矛盾である。

彼が暴力は認論者たる有力な典據は左の章句である。曰く

『真理の言葉は人類の敵に取て堪え難きものである。何となれば其れは彼等の權勢と存在とを脅威するからである。其故に人類の記憶以來、恐怖すべき刑罰が彼等に依つて案出せられ、一部は現今の文明に持ち來たされてゐる。』

現今の牢獄、囚人船、斷頭臺は其の最も戰慄すべき例證である。

汝等は汝の敵と妥協して、何物か得る處があると信する勿れ。汝の希望は唯だ汝の劍に懸つてゐる。汝と彼等との妥協は何れも汝の損失である。……真理が血に依て路を開拓しなければならぬとは誠に痛ましき經驗である。

其故に基督は言つた、地に泰平おたひかを出ん爲めに我來れりとおもひか意なかれ泰平おたひかを出さんと非ず刃を出さん爲に來れり馬太傳第十章第四節』と。

是に依て見れば、ワイトリングは、『屢々議論せらるゝも、未だ曾て實現せられた事のない一大真理』即ち財貨共有社會の實現も亦暴力を俟つに非ざれば到底不可能であると考へてゐた様である。

次に彼の所謂革命は大衆自身の自己解放運動では無く、是等大衆の先頭に立つ少數者に依て遂行せらるゝ殉教者の運動であつた。革命の準備行動として大衆の啓蒙を説いた事は前述の如くであるが、大衆は彼の所謂革命に於いては寧ろ一次的役割を演ずるに過ぎず、之に反して少數者の殉教者的行動を禮讚してゐる。

彼謂へらく

『人類を隸屬及抑壓から解放するために生涯の幸福を犠牲にし、真理を教へ、權利を説き、國民を死の眠より覺醒せしめ、抑壓者に對して、國民に武器を執らしめ國民と幸不幸を分つ人、其人は國民の尊敬すべき牧師である。……』

兄弟愛の旗幟の下に故國を自己の血汐を以て染め、確固不動の信念を自己の死を以て固守せし第一殉教者の姓名は現世、來世まで神聖であれ』と。

而して此殉教者の紀念碑は應て人類の聖堂となり、總ゆるの方面から此聖堂を見るために押寄せた、此前面で彼等の協和同盟を更新するであらう。而してワイトリング自ら殉教者を以て任じてゐた。

要之、財貨共有社會は叡智、勇氣、博愛の三要素の具備を俟て始めて、其實現の緒に着くものであるが、此過程は暴力の行使無くしては不可能である事、更に此革命は大衆自身の積極的自己解放運動に非らずして、此大衆の先頭に立つ少數者に依て遂行せらるゝ殉教者の行動であるといふ事、是彼の革命觀の基調である。フウリエエ、オオエン、サン・シモンに共通の特徴は其理想社會實現を平和的方法に求める事に在るが此點に於いてワイトリングは是等空想主義者と截然區別される。

(1) 彼が革命觀の變化に就ては後日、彼の著者、調和と自由の保證」研究の際に詳説する考である。尙ほ此問題を取扱つた

の A. Comrady—Weitings politische Wandlungen. Die Neue Zeit. 37. Jahrg. Bd. II. 3. 10-18. 頁 68。

- (2) Weiting, a. a. O., S. 24-25.
- (3) Weiting, a. a. O., S. 48.
- (4) Weiting, a. a. O., S. 48.
- (5) Weiting, a. a. O., S. 49.
- (6) Weiting, a. a. O., S. 49-50.
- (7) Weiting, a. a. O., S. 49.
- (8) Weiting, a. a. O., S. 25-26.
- (9) Weiting, a. a. O., S. 23-49.
- (10) Weiting, a. a. O., 49.

(未定稿)

附言

筆者は『人類の現實と理想』の根本思想の批評、其思想的根源の溯及、本書と後年の著『調和と自由の保證』『憐れなる罪人の福音』との比較研究を試みる豫定であつたが何れも果さず、僅に前者の内容敘述に止まらねばならなかつた事を吳々も遺憾とする。筆者は近く彼の名著『調和と自由の保證』研究を発表する積であるが其機會に是等の責務を果す考へである。

尙又本稿は早急の間に書かれたもので、其のため敘述結構の稚拙、論旨の不徹底、推敲の不充分的譏は筆者の到底免れぬ所であるを考へる。

## 獨逸古典哲學よりマルクスに至る 間の社會概念の發展

奥田 忠 雄

近來マルクス主義と獨逸古典哲學との關係に就ての研究書目は其數枚擧するに遑あらざる程の多數に登つて居るとは云へ、社會概念に於ける兩者の内的關係に就てマックス・アドラー程透徹せる分析を行つた者は他にないであらう。筆者は以下に於てアドラーの著書に從つて獨逸古典哲學よりマルクスに至る間の社會概念の發展を記述すると共に、社會の本質を検討し、以つて現時の社會學の發達に貢獻す可き何ものかを見出さんとするのが本論文の目的である。

キングルスはかの有名な、殆んど凡ゆる文化國語に翻譯された著書『空想より科學への社會主義』の序文に於て、『我々獨逸の社會主義者は單にサン・シモン、フリエエ、オオエンのみならず、又カント、フイヒテ、ヘーゲルに由來するを誇りとする。』と述べて居る。否な、未だ多くの人に依つて知られざるも、正に豫言者の如き態度を以て同一の思想を表明せる詩人ハインリッヒ・ハイネは獨逸國に關する著書の卷末に於て、先づ獨逸人は彼等の革命を佛蘭西人が歴史の舞臺の上で演じたのとは